

札幌新陽高等学校
平成二十三年 入学者選抜学力検査問題（一般入試）

第 1 部

国語

（45分）

注意

- 一 問題は 一 から 四 まであり、5 ページまで印刷してあります。
- 二 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 三 問題のうち、「……」…… 選びなさい。」「と示されているものについては、ア、イ、ウ、……の記号で答えなさい。

つゆ

だれにもいわずにおきましよう。

朝のお庭のすみっこで、

花がほろりとないたこと。

もしもつわさがひろがって

はちのお耳へはいったら、

わるいことでもしたように、

みつをかえしにゆくでしょう。

(金子みすゞ「わたしと小鳥とすずと」による)

問一 ～～線「花がほろりとないた」について、

(1) この表現技法を何といいますか。ア～エから選びなさい。

ア 対句法 イ 擬人法 ウ 反復法 エ 直喩法

(2) また、どのような様子を表していますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 花がかすかに揺れているのは、蜂が蜜をすっているからで、そのとき、花から露がこぼれ落ちた。

イ 花がかすかに揺れているのは、蜂が花から花へ飛び移っているからで、そのとき、花びらが風に舞った。

ウ 花がゆっくり揺れているのは、蜂が蜜をすっているからで、そのとき、花から蜜がこぼれ落ちた。

エ 花が大きく揺れているのは、蜂と蜂がぶつかりあっているからで、そのとき、花から露がこぼれ落ちた。

問二 この詩の説明として、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 作者は、花が泣いたということを、この私がしゃべってしまったら、うわさが広がって蜂の耳に届き、蜂が怒って私のところに抗議にやってきては困るので、私は言わないでいましよつと言っている。

イ 作者は、花が泣いたということを、この私がしゃべってしまったら、うわさが広がって、きつと蜂が悪者になってしまい、それでは蜂がかわいそうなので、絶対話さないでおきましようと言っている。

ウ 作者は、花が泣いたということを、この私がしゃべってしまったら、うわさが広がって蜂の耳に届き、蜂がこまって泣いている花のところに蜜を返しに行くことになるだろうかから、私は黙っていましよつと言っている。

エ 作者は、花が泣いたということを、この私がしゃべってしまったら、うわさが広がって、

花が泣き虫のように思われては困るので、誰にも言わないようにしましよつと言っている。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

入院は二週間の予定だった。目の中にメスを入れるというのに、イガイと短い。そんなに難しい手術ではないのかもしれない。でも、もしも、もしも、もしも……と考えると、「もしも」の向こう側にあるものがどんどん近づいてくる気がする。怖い。だったらなにも考えなければいいのに、勝手に考えてしまう。両親に文句を言いたい。もつと早く手術を受けさせていれば、少年も幼すぎて「もしも」のことは考えずにすんでいたのに。

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。汗が目には滲みる。拭き取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。汗と涙がにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

日曜日の商工会館は玄関に鍵が掛かっていた。少年はあきらめきれずに玄関のガラスドアを押したり引いたりしたが、アツシはさばさばした様子で、「おにいちゃんと二人乗りしたから、面白かったから、もついいよ」と笑った。

「だめだよ、そんなの」

開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。たまにはそういうことで、「もしも」を使いたかった。

「勝手に入ったら怒られちゃうよ……」と逃げ腰のアツシの手を引いて建物の裏に回ると、非常階段があった。落ちないように柵のついた、らせん階段だった。

よし、と少年はうなずいた。方角も海のほうを向いている。いいぞ、と頬がゆるんだ。

「もしも」が当たった。めつたに当たらないから「もしも」なのだから、もつ一つの「もしも」は、これでもうはずれる——と、いい。

階段を上った。転んだときのためにアツシの後ろに回った少年は、「手すり、ちゃんと持っているか」と何度も声をかけた。階段の段差はけっこうあって、まだ小さなアツシは、一段ずつ踏ん張らないと上れない。でも、それがかえってよかったのか、アツシは一度もけつまずくことなく、よいしょ、よいしょ、と上っていった。

三階から四階に上る途中で、まわりの建物の高さを超えて、視界が開けた。

「アツくん、海、あつちだから」

少年が指差す方向に目をやったアツシは、D 顔で「どこあ……？」と訊いた。「もつと先だよ、ずーっと先のほう」

見えるのだ。ビルや家の建ち並ぶ街を越えたと先に、空よりも微妙にまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江が小さく見える。間違いない。あれは海だ。

檻の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに、アツシはしばらく黙って柵に顔を張りつかせた。

カウントダウンは十。少年はそう決めた。十数えても海を見つけられなかったら、もつと上まで行けばいい。このビルは六階建てだから、どこかで海を見つけれられる。絶対にだじようぶ。自分に言い聞かせて、いーち、にーい、と数えはじめて……なな、で終わった。

「わかった！ 見えた！」

アツシの歓声が、鉄の階段にキンと響いた。

二人はしばらく黙って、街と、空と、海を眺めた。ときどき顔を見合わせて、アツシはうれしそうに、少年は照れくさそうに、笑った。アツシのほうが階段の上の段にいるので二人

の顔の高さはほとんど同じで、正面から見るときにはアツシのメガネの渦もそれほど目立たないんだな、と少年は気づいた。

「夏休みになったら、ほんとに海に行こう」

少年が言うと、アツシは「泳げる?」と訊いた。

「泳げるし、お母さんに水中メガネ買ってもらって、もぐって遊ぼう」

「お魚、見える?」

少年は息をすうつと吸い込んで、「アツくん目が良くなったら、見えるよ」と言った。

「だから見えるんだよ、絶対、百パーセント」

「……ほんと?」

「信じろよ、ばーか。文句言ったら置いて帰るぞ」

胸につつかえていたものが、とれた。アツシもなんだかほっとしたように、えへへっ、と笑った。

(重松清)「おとつて」「こめろ」

問一 線1を漢字で書きなさい。また、線2、3の読みを書きなさい。

問二 線A「だめだよ、そんなの」という言葉から、「この時の少年の気持ちについて、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。」

ア アツシが二人乗りで満足したことに対して不思議に思う気持ち。

イ せつかく連れてきたのに、自分の苦勞が台無しだと思つ気持ち。

ウ せつかく連れてきたので、なんとか海を見てもらいたいと思つ気持ち。

エ アツシが二人乗りで満足したことに対する怒りの気持ち。

問三 (1) 線Bの「もしも」の内容を具体的に表している一文を文中から抜き書きなさい。

(2) 線Cの「もしも」が表している具体的な内容を文中の言葉を用いて十五字以内で書きなさい。

問四 D に入るべき最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 晴れ晴れした イ 途方に暮れた ウ 得意げな エ 疲れ切った

問五 線E「胸につつかえていたものが、とれた。」のは何故ですか。その理由を文中の言葉を用いて三十文字程度で書きなさい。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

では、ピラミッドが墓だったらどうなのでしょう。墓ならミイラとか人骨が出てこないとおかしいはず。古代エジプトの「シュウカン」として、墓には多くの副葬品をいっしょに埋葬するので、そういったものも出てこなくてはおかしいはず。また墓は死体を収容するのだから、玄室は地下になくはならないはず。このように、ごく一般的に墓というものからピラミッドを考え直してみると、墓ではないという結論となってしまうのです。

とくに前の二つについては、現在一 基以上のピラミッドが発見され、発掘されていますが、ただのひとつとして出てきていません。一九五〇年代に、古代に封印されたと思われる石の棺をエジプト人の考古学者「グネーム」が見つけた時、大統領であったナセルの立ち会いのもと封を開けましたが、中には何ひとつ入っていませんでした。

それともうひとつ、これはとても大事なことです。ひとりの王が複数のピラミッドをつ

くっているという事実です。このことからしてピラミッドは墓でないことが明らかになります。もしピラミッドが墓ならば、どうして複数のピラミッドが必要なのでしょう。ひとつで十分というか、ひとつ以上あってはならないわけです。ひとりの王が複数のピラミッドをつくるという事実こそ、メンデルゾーンがいった「ピラミッド公共事業説」と合致することなのです。

しかも、ピラミッドをつくるにあたって、エジプトの各地から人が集まってくるわけですから、物産の交流、言語の統一、度量衡の徹底、そして一番重要なことには、ピラミッド建造に加わることでさまざまな技術を身につけ、「コキヨウへ帰ってその技術を生かせる点があります。これを技術の移転といい、現在の社会でも重要な課題なのです。ピラミッドの建造は、メンデルゾーンの主張した古代エジプトの農民の失業状態を救ったというような小さなことではなく、中央集権国家の成立と持続に不可欠なプロジェクトだったのです。

ピラミッド建造後二 年余りたつてエジプトに行ったギリシャの歴史家ヘロドトスが「ピラミッドは王墓である」と言った誤解は、一日も早く解かなければならないのです。もっともヘロドトスはその著『歴史』の中では「ピラミッドは王墓だ」と言っておらず、ギザのピラミッドの前でエジプト人の神官から聞いたと書いているだけなのですが。

今わが国の教科書のほとんどに、「ピラミッドは王墓である」と書かれています。それを訂正しようという動きはありません。[C]、王墓でないとするならば、何なのかという国際的なコンセンサスが得られていないからだと言われています。そうでしょうか。王墓でないということ、それでは何なのかということとは分けて考えなければいけないのではないのでしょうか。そうでないと、若いときに事実と真剣に立ち向かい、科学的に論理的にものごとを考える修練の機会をなくことになるのではないかと思えます。

(吉村作治「ピラミッドの謎」による)

(注) 玄室……棺を収める部屋。

度量衡……長さや容積と重さの総称。

コンセンサス…意見の一致。合意。

問一 線1、3を漢字で書きなさい。また、線部2の読みを書きなさい。

問二 線「不可欠」の意味を、ア～エから選びなさい。

ア 欠けてなくなってしまう イ 欠けても問題ない

ウ 欠くことができない エ 欠けることもやむを得ない

問三 線A「これ」は何を指しますか。本文中から二十字以上三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。

問四 線B「ピラミッド公共事業説」の具体例を本文中から二十字以内で書き抜きなさい。

問五 []に入る最も適当な語句を、ア～エから選びなさい。

ア しかしながら イ なぜかというウ もしかすると エ だからといって

問六 線D「科学的に論理的にものごとを考える」とはどういうことですか。最も適当なものを選びなさい。

ア 「ピラミッドは王墓である」と言った古代の歴史家ヘロドトスの説を前提にして考えること。

イ 「ピラミッドは王墓でない」ことの国際的コンセンサスがないので「王墓である」と考えざるを得ないこと。

ウ 「ピラミッドは王墓でない」ということと、それでは何なのかということに分けて考えるべきであること。

エ 「ピラミッドは王墓である」と書かれてある我が国の教科書を一方的に訂正すべきでは

ないといふこと。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

此の人の母、筍無ければ食はず。冬の時に臨みて、雪高く寒さ厳しくして筍尤も得難し。母台に向ひて曰はく、「吾年已に老いたり。人界に有りて子を煩はすこと、今幾ばくならず。何が故ぞ、尔年来の孝子と為て今朝の味を備へざるぞ。如かじ、吾汝が供を受けずして直ちに死なむ」と。時に孟宗忽ちに竹園に到り、其の枝を捕へて天に仰ぎ、声を高くして泣き悲しむ。即ち天感在りて、雪の中に紫の筍十枝生ひ出でたり。之を採りて母に供す。母悦びて食す。其の後、冬毎に筍有ること七年なり。

(「注好選」による)

(注) 筍……竹の子。

台……食事をのせる台。

如かじ……それにこしたことはないだろう。

問一 ……線A「此の人」とは誰のことですか。本文中から抜き書きなさい。

問二 ……線B「味(あぢはひ)」を現代かなづかいで書きなさい。

問三 この文章の内容に合うものを、ア～エから選びなさい。

ア 母が、好きな筍を食べられないなら死んだ方がましだと言った。

イ 春になって冬の間地中に埋めておいた筍を取り出すことができた。

ウ 母は好きな筍を食して、思い残すことなく天に召された。

エ 雪の寒さに耐えた冬の筍こそがおいしいことを、母はよくわかっていた。

第一部 国語

解答用紙

受検番号

出身中学校名
中学校

得点

一

問一 (1)

(2)

問二

二

問一 1 イガイ

2 詰 (め)

3 歓声

問二

問三 (1)

(1)

(2)

問四

問五

三

問一 1 シユウカン

2 封印

3 コキョウ

問二

問三

問四

問五 C
問六

四

問一

問二 あぢはひ

問三

模範解答

受検番号

出身中学校名
中学校

得点

一

問一 (1) イ

(2) ア

問二 ウ

二

問一 1 イガイ 意外

2 詰 つ (め)

3 歓 声 かんせい

問二 ウ

問三 (1) 開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。

(2) アツシの目の手術が失敗すること

問四 イ

問五 海を見て、目の手術の成功を信じることができたから。

三

問一 1 シュウカン 習慣

2 封 印 ふういん

3 コキョウ 故郷

問二 ウ

問三 ひとりの王と
いう事実

問四 古代エジプトの農民の
失業状態を救った

四

問一 子皿 宗

問二 あぢわい

問三 ア

あぢはひ

問五 C イ

問六 ウ